

令和3年度文京区アカデミー推進協議会
第3回分科会(スポーツ)概要記録

日 時	令和3年9月6日(月) 18:00～20:00
会 場	オンライン開催 (Zoom)
出 席 委 員	座長 青木 和浩 堀 正孝、山内 豊
欠 席 委 員	井上 充代、酒井 宏、小西 明子、水木 優香、富田 直美
事 務 局	川崎慎一郎スポーツ振興課長 (オリンピック・パラリンピック推進担当課長兼務) 増山哲史スポーツ振興課スポーツ振興係長 関根洋一スポーツ振興課施設等担当主査 熊倉智史スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック調整担当主査 (スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック事業担当主査兼務)
資 料	資料1 スポーツ分野の施策体系等 参考資料1 令和3年度 事業調査結果A スポーツ分野 参考資料2 令和3年度 事業調査結果B スポーツ分野
(議事) 1 議題 ◎委員意見 ◆事務局説明	1. スポーツ分野の施策体系等について 資料1に基づき、スポーツ分野の施策体系等について説明。 <u>(1)スポーツとは(2)現状と課題について</u> ◎(2)①スポーツ実施率 54.9%は高いと感じた。一方で障害者スポーツへの関心があまり高くないことにも驚いた。 スポーツ実施率が高い点については、「しなかった理由」が前回調査と比較してどうかのを知りたい。 (2)②楽しさ知ることは大事だと思う。文京区は施設や資源が豊富なので、楽しさを知る機会を充実していくことは大事だと思う。 (2)③忙しいという人には、多様なライフスタイルに対応して一人でもできるスポーツの機会を充実するといった取組は重要になるだろう。情報発信を工夫していくことも大事だと思う。 ◆スポーツ実施率は前回から 10 ポイント以上上がっており、高いと認識している。スポーツを広くとらえるという認識が定着してきたのではないか。スポーツを楽しんで継続している人が増えてきているかもしれない。 いつでも、一人でもできるという点では、コロナ禍で取り組んだ動画配信も一つのポイントとなったのかもしれない。1か月に1万回再生した動画もあった。いつでもどこでも簡単に取り組めることは、スポーツを継続していくにあたり重要だと感じた。 ◎(1)健康づくりや仲間同士の交流など幅広く捉えることはよいと思うが、例えば介護予防もここに含まれているのか。 (2)①忙しくてスポーツができない人に対応した施策があるとよい。

障害者スポーツへの理解など、パラリンピックのレガシーにも今後期待したい。

◆(1)介護予防は担当所管が別にあるが、健康につなげていくという点で連携していけると考えている。

(2)実施率が高いが、満足せず、仕事が忙しい人もスポーツに取り組めるよう、取組を考えていきたい。スポーツを継続していくための取組を検討し、計画に入れ込んでいきたい。

パラリンピックを通して障害者スポーツへの関心は高まった。ホストタウン事業や難民選手団の応援、ボッチャの体験会等を通じて、特に子どもの関心が向上した実感もある。

◎課題に紐づいて施策を検討していくことが重要になる。

(3) 施策体系の考え方(4) 施策体系について

◎(3)スポーツを支える活動に「参加していない」人が8割を超えている。他の自治体でもこういう状況なのか。

(4)スポーツに親しみを持てるというのは大事な視点だと感じている。

◆スポーツを支える活動に「参加していない」人の割合については、あらためて確認する。この調査結果は2019年時点のデータである。東京2020大会開催にあたって大会ボランティアを600人募集したが、学生やリタイヤ世代の申し込みも多く、すべて埋まった。また、「やりたかった」という声もあった。今後、スポーツボランティアを紹介するなど、支える人の活躍の機会を増やしていきたいと考えている。

◎パラリンピックの閉会式で難民選手団の紹介のタイミングで文京区について目にしたことは誇りに思う。

◆ボランティアの参加があってできたことでもある。子どもの関心を高めるきっかけにもなったと感じている。

◎(3)(4)の整理のしかたについて意見したい。(3)文章が長くて少しわかりにくい。「する」「見る」「支える」が列挙されればわかりやすくなるのではないか。

(4)基本方針と施策の中で「する」「見る」「支える」の対応関係がわかるようになっているとよい。

◆「する」「みる」「支える」の対応関係がわかりやすく示せるよう事務局で検討する。

◎「する」「みる」「支える」視点を実施する層など、整理の軸が複雑になっている。計画として多様性がキーワードになっていることもふまえ、どのように対応できるか考えたい。

例えばホストタウン事業は公金を使った事業だが、すべての区民に対しての成果が出たかどうかの評価は難しい。東京2020大会後、各主体が、何にどう価値を見出していくかを考えなければならない。レガシーについてもしっかりと考えていかなければならないと感じている。東京2020大会では、ある意味特別な予算措置もあった。通常のエconomic状況に戻った時に、現場の運用を考えていかなければならない。

◆区としても東京都の補助等があって実現できた整備もある。オリンピック・パラリンピック推進担当は役割を終えるが、スポーツ振興課としてレガシーを引き継ぐには

これまでの積み上げが重要になると考えている。例えばカイザースラウテルン市との交流等については、今後もこのつながりを生かした取組を考えていきたい。

◎スポーツだけでなく、国際交流などの分野と連携して、レガシーとして施策を横断的に推進していけるとよい。

(5) 基本方針と施策の方向性について

【基本方針①について】

◎施策Aについて、他分野との連携が大事になると思う。駅と駅間を歩いてみるためのマップといったものがあってもおもしろいのではないかと。

施策ウについて、プロスポーツとの連携は予算も用意して積極的に取り組んでほしい。

◆他分野との連携は重要になると考えている。既存のウォーキングマップもあるので、これまでの取組を活かしたうえで連携の方策を考えたい。

読売巨人軍の取組はコロナ前まで行ってきており、打撃練習など普段見られないところを見学できていた。引き続きできることを考えていきたい。

◎「誰もが身近に」という点で、区はきめ細かく幅広い取組を行ってきていると感じている。そのうえで、より区民にとって身近な施策を展開するためには、「もっと知ってもらう」「参加しやすい条件を整える」ことが大事になると思う。すでに様々な取組が行われているので工夫が大事になってくるのではないかと。

◎「機会の拡充」「環境づくり」と方針を整理しているが、重複している内容もあるので整理できるとよい。

様々な取組をしてきているので、どう伝えて、どう行動変容を促し、継続させていくかが大事になるだろう。

【基本方針②について】

◎指導者育成は今後肝になると思うので継続していけるとよい。

◆区民がスポーツを継続していくには、指導者の質が重要になる。体育協会等とも連携して取り組んでいきたい。

◎学校施設の活用はどこまで取り組むことができ、これからどうしていくのかが知りたい。学校施設は身近にあって数も多い。活用できるのであればよいことだと思う。

◆スポーツ交流ひろば事業はほとんどの公立学校で実施できているが、施設利用のニーズはまだある。今後は大学との連携を強化することで新たな取組ができると感じている。近年、東京大学、中央大学から野球場を借りることができている。引き続き連絡を取っていきたい。

【基本方針③について】

◎東京2020大会のレガシーとして障害者スポーツの機運を維持・継続してほしい。

◆持続可能なかたちを考えていきたい。

◎事業の再掲が多くなってくるが、地域づくりにつなげていくというコンセプトが区民にとってわかりやすく示されるとよい。

※職員総括

◆貴重な意見をいただいた。レガシーの在り方・今後の展開、指導者の育成は重要だと感じている。区民に伝わりやすい計画にしていきたい。

◎できればよいと思うことはあるか。

◆様々な事業に取り組んできた。周知、参加者ニーズのフィードバックに取り組んでいくことが重要になると感じた。

◆施設活用にあたっては、新たな視点で取組を考えていくことも必要だと感じている。

◎既存のスポーツ施設の稼働率は高いのか。

◆100%に近いところもあり、総じて高い稼働率となっている。

◆スポーツ施設の新設は現実的ではなく、既存の施設の活用が課題になると考えている。

◎活用方法を工夫していけるとよい。

◆東京 2020 大会が閉会した。コロナ禍でかたちに残してこられなかったことも多いが、ボランティアの力があって実現できたことは大きなレガシーだと感じている。障害者スポーツへの理解も進んできた。今後もレガシーとして事業に生かしていきたい。

◎東京 2020 大会を通して、障害者スポーツは広く一般に普及したといえるだろう。

「パラスポーツ」という表現は用いないのか。

◆障害者スポーツは言葉として残る。ユニバーサルスポーツに移行していきたいという考えもあり、計画の中で表記は混在している。

◎現実の取組として混在していて、シフトしていく段階ということであれば、これでもよいと思う。

◆気づきの多い会となった。様々な取組を行ってきているが、より多くの区民に伝わるように整理していくことが重要だと感じた。

◎「印象に残る」「わかりやすさ」といった視点が重要になるだろう。情報発信もポイントになるだろう。

◆2点ある。

1点目、(5)①で「する」「見る」「支える」を一つの方針にまとめたことは、これでよいか。文化芸術分野では基本方針において、「する」「見る」「支える」の対応を整理している。

2点目、他の4分野では新型コロナウイルスに関する記述が多いがスポーツでは少ない。このトーンで記述していくことでよいか。

◆1点目、他4分野の計画もあらためて確認する。

2点目、計画が動き出してからにはコロナ禍の影響はどの程度になるかわからない。他4分野と整合図りたい。

	<p>◎1点目、前計画は「する」「見る」「支える」の構成としたが、施策を推進してきたことで、今回は発展して、違う視点で体系を整理したという説明もできるだろう。</p> <p>コロナ禍の影響は3年後、5年後は今と全く別の状況になっているかもしれない。</p> <p>東京 2020 大会が開催されたこともふまえると「新しい生活様式をふまえて」「家でできるトレーニング」「ICT 活用して何かやる」といったことがふれられているくらいでよいのではないか。他4分野とのバランスを見ながら位置づけを事務局で考えてほしい。</p>
2 閉会	